

部 会 報 告

ISO/TC 214 昇降式作業台 — マーストリヒト国際会議報告 —

ISO 部 会

はじめに

ISO/TC 214 は昇降式作業台に関する専門委員会 (TC) で、米国が幹事国を担当する。日本の対応委員会は、(社)日本建設機械化協会に設けられている。

同専門委員会 (TC) の第 4 回国際会議が 2000 年 9 月 18 日から 20 日までの 3 日間、オランダのマーストリヒトで開催され、日本から小田 ((株)タダノ) が第 1 作業グループ (WG1) 会議および TC の本会議に出席した。会議の概要を以下に紹介する。

会議の開催された場所、議題、日程、出席者は下記のとおりである。

- ・場 所：オランダ・マーストリヒト市マーストリヒト見本市/会議場
- ・議 題：審議対象は高所作業車に関する 4 件の ISO 規格案
- ① 「設計計算、安全のための要求条件、試験方法」、ISO/DIS 16368.3, Design calculation, safety requirements and test methods
- ② 「運転者教育」、ISO/CD 18878, Training of drivers
- ③ 「マニュアル」、ISO/CD 18893, Manuals – Safety principles, inspection, maintenance and operation
- ④ 「操作盤等に使用する絵文字」、ISO/DIS 20381, Symbols for operator controls and other displays
- ・会議日程

	午 前	午 後
9月18日(月)	TC 214/WG 1	TC 214/WG 1
9月19日(火)	TC 214/WG 1	TC 214/WG 1
9月20日(水)	TC 214/WG 1	TC 214 本会議

・出席者

WG 1 に 19 名、TC 214 本会議には 21 名が審議に参加した。幹事国は米国、議長は Paul Young 氏が務めた。なお、当初議長を予定していた Ekstein 氏は欠席した。出席者の内訳を国別にみると次のとおりである。



写真—1

① WG 1 会議 (19 名)

米国 (11 名、議長および事務局 2 名の計 3 名を含む)、カナダ (2)、フランス (2)、ドイツ (1)、イギリス (1)、スウェーデン (1)、日本 (1)

② TC 214 本会議 (21 名)

上記 WG 1 メンバーにポーランド (1 名、ISO/TC 195 (建築用機械専門委員会) 議長の Szymanski 氏) およびフィンランド (1) が加わった。

審議概要

3 日間にわたる会議は初日、議長の開会の辞、出席者の自己紹介、議題の承認で始まった。事務局から ISO/TC 214 専門委員会と WG 1 の現状説明、関連する委員会の活動状況について簡単な説明があり、WG 1 の議題の審議に入った。

(1) WG 1 会議

(a) 「設計、安全、試験」ISO/DIS 16368.3

ISO/DIS 16368.3 (改訂第 3 版) について審議した。内容そのものは過去の国際会議と投票によってほぼ固まっており、今回は主に個々の項目の表現点検が行われた。しかし本会議の最終段階の裁決でフランスが反対したた

め、規格案を FDIS とすることはできなかった。今回の結果を DIS 改訂第 4 版として今後審議が継続される。

フランスの反対の理由、今後の審議スケジュールについては TC 214 本会議の項で述べる。

(b) 「運転者教育」ISO/CD 18878

フランス提案を手直した米国案について審議した。今回は規格全体の構成のチェックを行った。結果は再度、委員会原案 (CD) として回付され、これについては 2001 年 5 月 16 日 (水)～5 月 18 日 (金) 開催予定のシアトル会議で審議される。

(c) 「マニュアル」ISO/CD 18893

内容についての審議はなかった。DIS 案がこれから回付される (時期触れず) 予定である。同案については 2001 年 5 月 16 日 (水)～18 日 (金) 開催予定のシアトル会議で審議する。

(d) 「絵文字」ISO/DIS 20381

フランスの提案として DIS 案が回付された。詳細はシアトル会議のテーマ。

(2) TC 214 本会議

TC 214 WG 1 の審議結果の報告と総括、および TC 195 (建築用機械専門委員会) の活動報告などが行われた。

(a) TC 214 の審議概要

WG 1 で審議した ISO/DIS 16368.3 (設計、安全、試験) は、採否におけるフランスの反対で承認されず、FDIS とはならなかった。

フランスの反対は同国内の手続き上の理由によるものである。つまり、同国の規格・規則を統括する同国機関 (National Standard Committee、と表現された) が、同日 (9 月 20 日) 決議採択の時点までに WG 1 の審議結果について承認しなかったから、というのがその理由であった。

その結果、ISO/DIS 16368.3 は 16368.4 (第 4 版) として次回の国際会議で審議を継続することになった。次回の会議は 2001 年 5 月 16 日 (水)～5 月 18 日 (金) の 3 日間、米国のシアトルで開催することが決まった。

シアトル会議までのスケジュールはつぎのとおりである。

フランス国内意見まとめ、同国から事務局へ報告：2000 年 12 月から 2001 年 1 月頃に完了の予定である。

- ・ISO/DIS 第 4 版の回付：2001.1 月末頃までに行う。
- ・各国による第 4 版見直し：2000 年 1 月以降に実施する。
- ・シアトル国際会議で審議：2001 年 5 月 16 日～18 日
フランスの反対 (上記) の影響を受けて議事が混乱したためか、会議の結果を確認する決議案の採択はなかった。



写真-2 マーストリヒト市庁舎

(b) TC 195 よりの報告

- ・2000 年 5 月のワルシャワ会議の結果を中心に、TC 195 の活動状況について同委員会議長の Szymanski 氏 (ポーランド) から報告があった。
- ・同議長から、組立て足場規格を TC 214 で引受けてほしいとの要請があった。しかし、TC 214 にはその分野の専門家がないこと、そして現在高所作業車の複数の規格案を検討中であるなどの理由で TC 214 はこれを断った。

6. おわりに

マーストリヒトはオランダ南部にある、マーストリヒト条約 (連合条約) でもその名がよく知られる人口 12 万ほどの都市である。

会議は「マーストリヒト見本市・会議場」という施設で行われ、会議のあとは高所作業車の国際展示会「APEX 2000」が同じ場所で開催された。実は ISO/TC 214 会議は、事務局が出席者の便宜を考えて時期と場所をこの展示会に合わせたものである。会議出席者のほとんどが高所作業車メーカーの関係者であり、展示会と兼ねて会議へ出向いてきたメンバーが多かった。展示会とあわせて開かれたシンポジウムでは、テーマの一つとして「高所作業車規格」も取上げられ、ISO/TC 214 議長を務めた Young 氏が「高所作業車の世界規格」と題して「設計」、「運転者教育」に関する ISO 規格策定の状況を、今回の会議の結果をまじえて説明していた。もともと ISO 規格原案が欧州から出たこともあってか、米国は勿論、欧州の高所作業車の業界が ISO 規格化の動向に強い関心を持っていることがこのシンポジウムでも窺えた。

(ISO/TC 214 日本代表・小田 淳 [(株) タダノ])